



初夏編

生きものの賑わいを保つ管理

刈取りのタイミングと生物の多様性

草をいつ、どの高さで、どんな方法で刈るか……
実は公園の年間計画が地域の多様な生き物の運命を
左右する可能性があります。

01

草刈りで多様な環境条件を作る

1年間に4回以上草刈りを行う場所と2回だけ行う場所では、出現する植物の種類は大きく変わり、草丈の違いから、生き物の利用する隙間の大小や土壌の湿り具合、気温の上下動も変化します。



年1回

ススキ、セイタカアワダチソウ、
ヒメムカシヨモギ、オオマツヨ
イグサ
(アオスジアゲハ、ミツバチ、
トンボ)

年2～3回

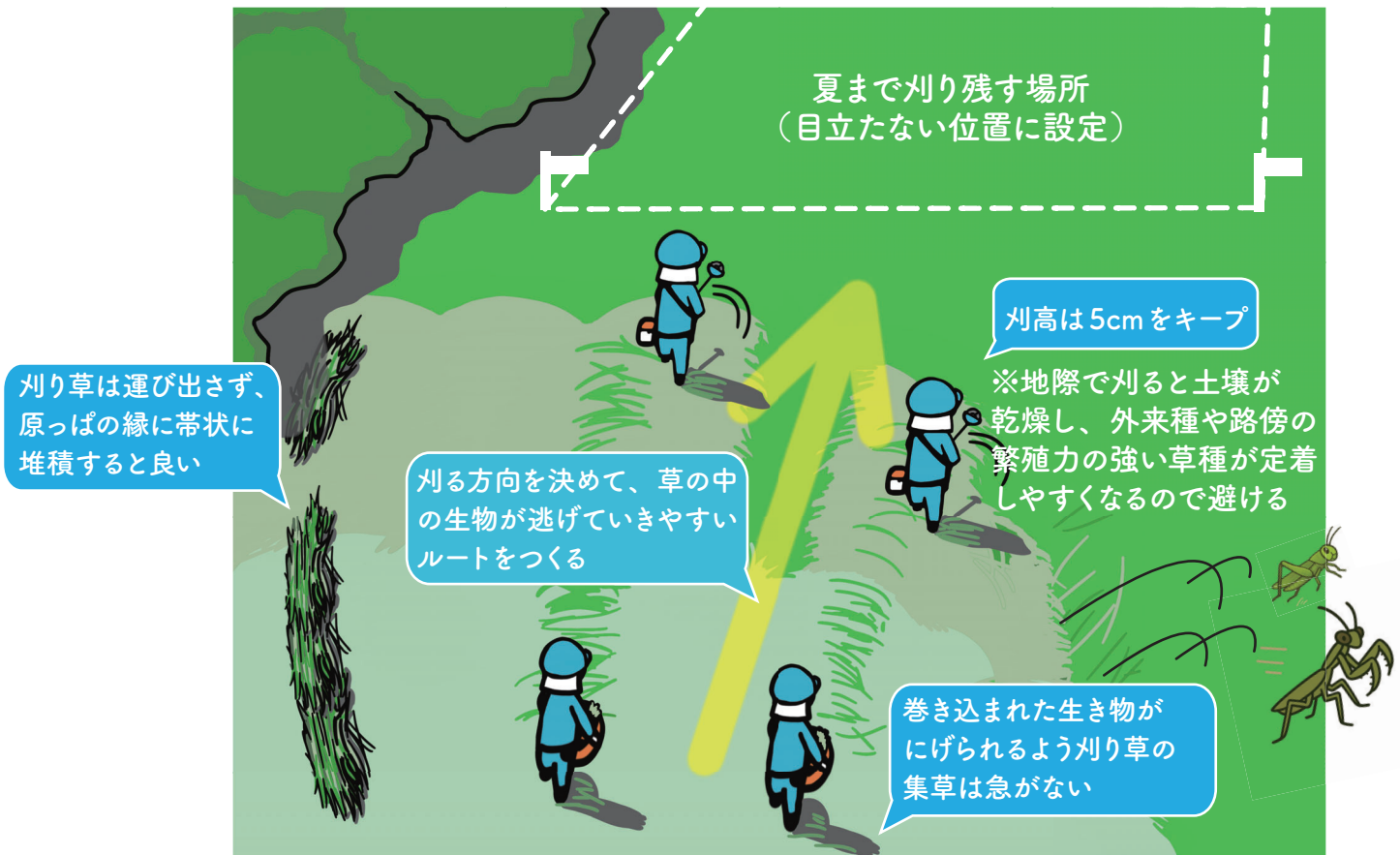
オシロイバナ、ヒメジオン・ハ
ルジオン、ノアザミ、ヨモギ
(オオスカシバ、
カマキリ、モンシロチョウ)

刈取：年4回

カタバミ、スマレ、タンポポ、
スズメノヒエ、スギナ、スイバ
(シジミチョウ、ツマグロヒョウ
モン、ヒシバツタ、
エンマコオロギ)



毎年ゴールデンウィークごろに行う年度初めの草刈りをお休みして、7月初旬から年間草刈りを開始する場所を取っておけると、春に生まれる様々な生物の子供たちが、自力で逃げて生き延び、次の世代を残すことができるようになります。



小ネタ話

草刈りを利用する鳥たち

動植物は生きるためにお互いを利用する関係を築いています。適切に草刈りをするすると季節ごとの植物が増え、それを利用する虫が増加します。そして、その虫を食べる他の虫や爬虫類も増え、小型の哺乳類や鳥も集まりやすくなる連鎖が起こります。



公園・緑地の植栽点検・講習のご依頼は株式会社エコルまで！



発行元 株式会社エコル

東京都港区南麻布 3-20-1 Daiwa 麻布テラス 4F

03-5791-2901 03-5791-2902

過去の記事も確認できます！

都市樹木研究室の
HPのQRコードは
こちらから

